

先生にはお夢りなくお過しと存じまう。
北の山を降りていらしゃいませ。たゞようか。
小雲が降り出すか。はないかと気がかり
うう。

来年は先生の數之で百歳の由、心から
お祝い申上げよう。いつも私ども後輩
作家の希望でいらしゃいよう。
来年度は先生の祝いの会とと、
皆々で計劃してありまうが、たゞし、
ほんの少しの時分もお顔と
みまようこふと存じ、うう。

あしらせかみるとほい、うう、
者会から北河野多恵子さんと私と、
お年儀い給う。なんなりとお申しつけ
て、うう。

お身は大印にお過しのほど念に上げよう。

十月十日

杉並区高円寺北四九七
芝本 ぬ子